

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 3 号

令和4年 9月 7日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

8月1日(月)

提案 坂本 実 先生(川和東小)

【会場】

フォーラム南太田 第2研修室

司会 松永 快哉 先生(市場小)

記録 遠藤 恭兵 先生(二つ橋小)

1 提案内容 単元名

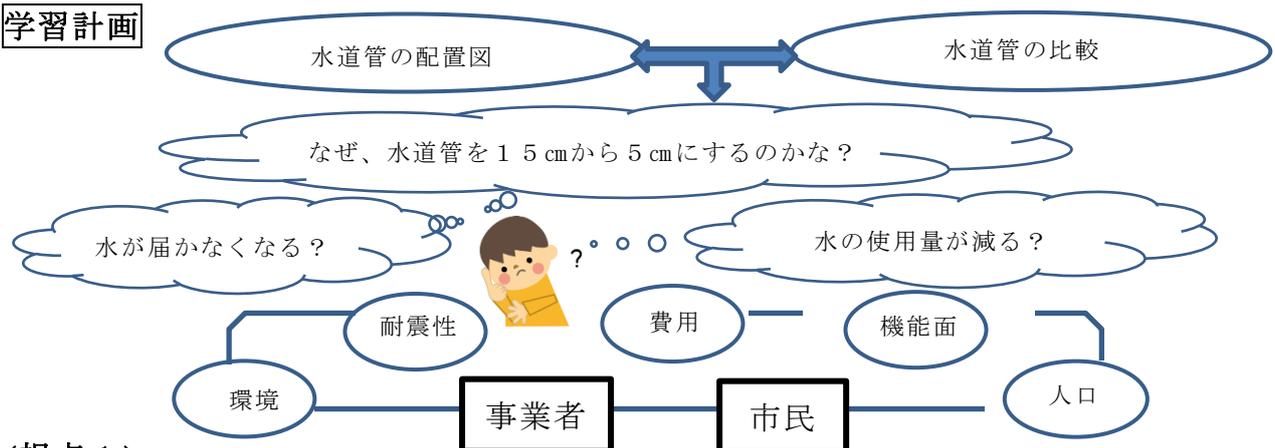
「今に合わせて、水を送り届ける～水道局の水道管ダウンサイジング～」

2 提案者より

育てたい資質・能力

【自分で考えて行動】 【自分で問題発見、解決する力】 【考えを伝え合う力】

学習計画



<視点1>

◇学習方法についての振り返り

学習問題に対する振り返り(知識等)とは別に、「学び方」についての振り返りをする。

◇学習指導要領の分析

供給の仕組みや経路に着目することを通して、県内外の人々の協力について知る。また、安全で安定的に供給できるよう進められていること、それらは地域の人々や事業に関わる人々によって守られていることを理解できるようにする。

◇実践より

・抽出児(A児・B児)

A児：授業のなかで発言が少ない。学び方について高めていく。

B児：興味はある。表現が得意ではない。

◇実際の流れと抽出児の変容

- ・水源の水と実際の水の比較→水の通り道について→「港北配水池」からどうやって学校まで水が届くのか。(学習問題)

【A児のふり返し】

「紙資料ではなくてインターネットの方がよい。」
(ダム役割)「なくなるのだろうか。」「先に紙資料の方が」
(単元)「パンフレットとインターネット資料を比べると効果的。」
「組み合わせるとよい。」「自治会の人に聞いてみよう。」

【B児のふり返し】

「身近な資料を活用して説明することができた。」(水道管から家まで実際にどうやってくるのか。)

(くらげチャートの活用)「ダムがないと、どうなるか。」

- ・学習内容、学び方のふり返しから

【成果】・子どもが見通しをもって活動できるようになった。

- ・学習の調整をする児童の姿が見られた。(ネットを使って調べればよいと考えていたが、教科書、ネットを活用したうえで人の話を聞くことが大切と記述する児童もいた。)

【課題】・学習方法についてふり返しを記述している児童は限られていた。他教科でも学習方法を子どもが計画・選択し、その学習方法のふり返しをしていくことが大切。

<視点2>

◇本気の学習問題

複数の視点から学習問題を考える。(多面的な見方・考え方)

◇ダウンサイジング

施設の更新の際に活用。費用の抑制、停滞水、規模縮小化を図る。具体的には、サイズの縮小と距離の最短化等。

→新旧水道管の比較(都筑区中川駅の水道管と港北配水池から学校までの水道管)を通して、本気の学習問題「なぜ水道管を細くするの？」を成立させた。

◇多面的な見方

人口が減る理由・水道局との関係・水道局の取り組みから問題を考えた。しかし、「熱中症で～」や「コロナの影響で～」など、根拠の薄い発言や最近の社会状況をもとにした発言をする児童もいた。

→複数の視点から考えを結びつけることができていた児童がいた一方で、児童の発言に対して、教師の介入が必要だった。資料提示のタイミングの工夫も必要だった。教師の指導性を発揮する場面が少なかった。

◇児童の変容

「水を節水すると家庭は楽。」「水をたくさん使うと家庭に負担。」「水をどうやって使うか迷っています。」といった発言をする児童も見られた。

3 協議会

- ・本時で2つにしぼりたい理由は何か？(ダウンサイジングと金銭面)
→水道を細く短くすることが印象的。教師自身が驚いた。児童も驚きをもって学習に臨めると考えた。
- ・意図的指名について
→学習問題に着目させる内容のため、2・3・9児を、視点を定める内容のため、15・29児を意図的指名。
- ・児童の発言
「お金」「水道管を細くする理由」「塩素が～」前時まで知識をどれだけ習得していたか。
→5・6時の間の出前授業にて習得。工事についての説明に対して「工事って何をしている？」「たくさんお金がかかっている。」「国が支援しているのか。」「自分たちが水を使うことで工事ができる。」などの発言が見られた。
- ・多面的な考え
「水道施設職員による出前授業」「人から聞いた話」「施策」4年生で考える難しさ
→【工事】【人口】【工事費用】と、多面的な具体的場面から思考できるように板書整理した。「工事はしたほうがよい。」という発言や、【機能面】【エポキシ樹脂】【環境面】【社会的配慮】【機能面】【環境配慮】という視点から発言していた。

<講師の先生より>

□西富岡小学校 黒田由希子 校長先生

- ・丁寧に取り組んでいる。水は安定的な供給が大切ということを理解していた。
- ・方法と問題についてのふり返り
→予想に対する学習方法が明確になれば、より具体的に検証することができる。自分の学びをふり返り、何が分かったか、何が分からなかったか、俯瞰する力を高めていく。メタ認知によって客観的に捉えることが大切。
- ・主体的な「調べ方」
→児童は調べ方を知らない。それでは、主体的な追究にならない。調べ方を明確に教えることが大切。紙媒体、ネット媒体等。実物があると理解できる。
- ・学習内容
→実際にはどのように水が運ばれるのか。使った後の水はどうなるのか。「水」は循環している。大切に使うことがどうして大切かを考えられるようにしたい。停滞水について無駄にしないという意識はあるが、「将来的には～」など、自分で考えていくことが大切。
- ・社会的事象のズレ、本気の学習問題、子どもの思い
→「なぜ水道管を細くしたのか」「～のに、なぜ～」これまでに子どもがどう感じ、この先どうしていくのかを考えていく。【自分の考えの根拠をもとに、友達の意見と比べながら】が、協働的となる。
児童の予想→予想に対しての事実(確認)→協働的に学習を進めていく。

・教師の指導性

→どの資料でどう思ったか(児童)に対しての教師の問い返しが必要。

気付きを促している。「無駄にしない(児童の発言)」は、抑えている。

【耐震化】【工事】【お金】などの視点をもとに、見える事実→見えないことへ、社会の仕組みを捉えたり考えたりすることが大切。

・多角的な考え方

→4年生の実態に多面的の捉えはない。多面的は中学。多角的は小学5・6年。

高学年に繋がる思考法を。『人口を予測し、将来のために管を細くしている』ことが、社会的捉えに繋がっていく。水道料金が水道管の工事費用となっている。自分のお金から、水は安定的に供給されていることも考えの一つとなる。

□教育課程推進室 主任指導主事 森圭一朗 先生

・児童の見取り

→先生が仕掛け、児童がどのように変容していったか、その姿を見取っていく。

ふり返りについて【絞り込んだ視点】【どうやって考えたか】【どのように調べたか】【どの立場で考えていたか】【市民】【事業者】などが視点となる。

・学び方

→紹介、共有、価値付けを通して、全体化を図る。ロイロの活用も積極的に。

・教師の指導性

→話し合いの整理、論点の順序が必要。工事は必要前提。「このままだと無駄になってしまう?(財源)」「老朽化は止まらない。」といった視点が必要。

「そのまま改善するのか。」「改善するならどうする。」【機能】【耐震性】

【費用】の視点から、多角的に考える。立場の整理をしていくことが大切。(事業者立場、消費者立場)「私たちは～」など、利用者としての思いが必要。

「コロナで人口が減ったら～」「熱中症～」→扱う水に注目させたい。この場面では教師が整理する。教えていく。(教師の指導性)

・資料について

→資料の選定は児童の実態に合わせて行う。適切に見せる場面も工夫していく。

水を捨てるのは良いのか駄目なのか、その資料掲示はあってもよかった。

〈選択・判断〉節水になる⇔水道局は節水してほしくない。節水が目的か水を使うことがどういうことなのかを考えていく。

悩み続けることが選択・判断。

水がすぐに出てくる意味について考えることが大切。安易な行動化ではなく、意味のある意識化が重要となる。

・その他

→社会科の授業を通して、資質・能力にどのように汎用できているか。目指す資質能力を明確に、具体的方策を模索していく。目指す資質能力が学校教育目標につながる。授業記録は、子どもの姿を明確にふり返れるため、意義がある。